

## 令和6年度第1回博物館協議会会議録

### (司会)

- ・出席委員数開会条件成立報告
- ・傍聴者数報告

### (館長)

#### <開会あいさつ>

本日は非常に暑い中、博物館協議会へのご出席に感謝申し上げます。

令和6年度第1回博物館協議会を開催いたします。

この協議会は、博物館の活動（調査・研究、収集・展示、広報・普及、世界遺産の保護と活用）について、専門的な意見や批判をいただくことを目的としています。

前回（令和5年度第2回）では「利島の杜」の見学を通じて、利休資料の収集方法や展示の工夫、活動の「見える化」について助言をいただきました。

また、堺ミュージアム（仮称）の建設構想について説明があり、歴史・文化発信と美術館機能を併せ持つ施設として、収蔵品の集約化を目指す方針が示されました。

本日の会議では、令和5年度の事業報告と令和6年度の予算報告を行い、現在開催中の企画展「ハニワ大解剖」や、今後予定されている「仁徳天皇陵と近代の堺」「山の聖」などについて紹介します。

さらに、大阪・関西万博を意識した展示について、委員の先生方のご意見を伺いたいと考えています。短時間ではありますが、皆様の率直なご意見を今後の企画運営に活かしてまいりますので、活発な議論展開をお願いいたします。

### (司会)

- ・協議会委員紹介
- ・事務局職員紹介

### 【議事】

#### (禰宜田会長)

どうも皆さんこんにちは。本当に暑いですね。暑い中ではございますけれども、第1回の博物館協議会ということで、これから議事の方に入っていきたいと思います。

事務局から、大変詳細な資料が配られてきたかと思います。

今日の議事といたしましては、まず、最初に報告で三つの項目があり、次に案件について説明があつて、意見を言うということになっています。前回、この報告で、事務局の資料が少し簡単な作りだったので、我々委員からかなりいろいろな形で意見を言わせていただきました。それに結構時間を要するようにな

ったかと思うのですが、今回の資料につきましては、かなり充実した内容になっているのではないかと思います。案件は、大阪万博に向けての取組を中心に大所高所からのご意見を頂戴するというのが、限られた時間の中、重要になってくるのではないかと思いますので、そのような形で進めることができたらいいのかなと思っています。

そういたしましたら早速ではありますけれども、議事 1 の報告の方に移っていきたいと思います。ご説明をよろしくお願いいたします。

#### 【議事 (1) ー① 令和 5 年度の事業報告】

＜事務局説明 (資料 2 令和 5 年度事業報告)＞

＜事務局説明 (資料 3 入館者数)＞

#### (土橋委員)

令和 5 年度の事業の全容を、今回はそれぞれの事業の目的や具体的なデータも入れていただき、詳細に見せていただきましてありがとうございます。

市民向けに広く見せていく博物館事業と言え、いわゆる展示や普及啓発事業ということだと思いますが、その根幹となる学芸員の調査研究活動をもっと詳細に大きく取り上げて前面に出していただくと、この協議会の資料としてすごくいいのではないかと思います。

#### (学芸課長)

研究活動は館の学芸事業の根本で、それぞれの学芸員が普段から資質を向上させているところの証にもなり、調査研究の成果が、企画、特別展等の展示に表れると考えています。この内容につきましては、研究活動がどういうふうにかされているかということも含めまして、次回、ご紹介をさせていただきたいと思います。

#### (禰宜田会長)

この研究活動が掲載された館の出版物でいうと、年報がありましたか。

#### (学芸課長)

堺市博物館研究報告が年報の役割をしており、館の学芸員中心に積極的に書くなか、外部の方からもご寄稿いただいています。

#### (禰宜田会長)

この委員会で研究成果を共有するということもあると思いますが、この研究報告の中で、こういう研究をしていますというようなことが、外の組織に対しても情報発信ができればいいかもしれませんね。そ

の辺のところもご検討いただければというふうに思います。

**(学芸課長)**

発信についても検討させていただきます。

**(村田委員)**

本当に多岐に渡り精力的な活動をされていまして、館の方もお忙しいかなと思いました。これまでこういう詳細な資料が出ていませんでしたので、非常に詳細な活動内容が、よくわかるようになって本当に良かったと思います。

資料収集では、寄贈が非常に多いということは、本当にさすがだなと思いました。館に対する信頼が背景にあるのかなと思いました。

購入ですが、令和5年度は、新しく資料購入はしていないと書いてあります。令和5年度では特に購入すべき資料というのはなかったということでしょうか。それから前にもお尋ねしたことがありましたが、予算として購入費は幾らぐらいで年間に設定されているのでしょうか。

**(学芸課長)**

購入としましては、所蔵者の方からのお申し出等があれば、それに対応ができるような形で考えています。令和5年度につきましては、特に迅速に対応する件がなかったので、資料購入はございませんでした。

**(村田委員)**

最近、ヤフオクとかでよく出ますけど、そういうのはあまり対象にはならないですか。

**(学芸課長)**

オークションへの参加は、地方公共団体としては難しいところで、中にはぜひとも思うようなものが出ている場合もありますが、オークションへの参加は現在しておりません。

**(村田委員)**

オークションには、いい資料がよく出ますが、本来でしたら博物館にあればいいというのが、結果的にどこかに行ってしまうというケースも多いんじゃないでしょうか。

**(学芸課長)**

堺に関する資料が、古美術品のカタログ等にも出てくることはありますが、すぐの対応は難しいと思います。

特にそういう情報はできるだけ集めるようにはしていますが、令和 5 年度はこれはぜひにということはありませんでした。

**（村田委員）**

研究活動のことですが、ここでいう研究というのは、それぞれの学芸員の方のそれぞれの専門に応じた研究ということだと思いますが、例えば、これからのあるべき博物館といった博物館全体に関わるようなことを研究していく共同研究というのはあるのでしょうか。

**（学芸課長）**

特に共同研究を立ち上げているわけではありませんが、（仮称）堺ミュージアムという計画があります。この（仮称）堺ミュージアムが、どういうミュージアムをめざしていくかということについて、内部で検討しているところです。

**（禰宜田会長）**

そういたしましたら、報告③、令和 6 年度の組織体制、事業および予算の説明をしていただきまして、合わせて今年度のことについても、ご質問があればその場でしていただくということで、議事は進めさせていただきますと思います。それでは報告をお願いしたいと思います。

**【議事（1）－③ 令和 6 年度の組織体制、事業及び予算について】**

＜事務局説明（資料 4 博物館組織体制）＞

＜事務局説明（資料 5 堺市博物館企画展スケジュール）＞

＜事務局説明（資料 6 堺市博物館事業別行事予定一覧）＞

＜事務局説明（資料 7 令和 6 年度予算）＞

**（禰宜田会長）**

事務局のご説明につきまして何かご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

**（岡田副会長）**

まず資料 2 の 6 ページ、I P M・資料薫蒸の生物調査のトラップ回収報告はどうだったんだろうというのが一つ目です。同じく資料 2 の 11 ページの職場体験学習の一番下の数字は間違っていないかというのが二つ目で、三つ目ですが、資料の 5 の堺市博物館公式キャラクターのサカイタケルくんにはいろいろなバージョンがあったのでしょうか。もう一点、予算で前年度の予算・決算額をここに 5 年度の予算決算比較のために載せることは不可能でしょうか。

**(学芸課長)**

I P M生物調査ですが、報告書の中では特に収蔵庫・展示室に対して多大な影響があるようなモニタリング結果とはなっていません。

**(推進係長)**

11 ページの下、10 職場体験学習の参加者の②の人数が違うのではないかというご指摘ですが、こちらのミスでした。お詫びして訂正いたします。

サカイタケルくんは、堺市出身の彫刻家で世界的に活躍されている藪内佐斗司先生が当館のために作ってくださったキャラクターで、直立不動バージョンを長く活用させていただいていたんですが、令和5年度に藪内先生の事務所に、表情を指定して依頼し、何パターンかを作っていただきました。それを早速、ハニワ展等で活用しています。

**(館長)**

予算・決算のこの表の出し方、非常にまずいです。副会長が言うように、3年ぐらい通しの予算・決算を出して5年度と比較する。前の協議会で一度きつく要求されまして、一度、実施したんですけどそのやり方が継承されてないと見えて、今回は失礼しました、単年度しか出しておりません。非常に不適切な提示の仕方です。こんな予算書があったって比較できないようなものは意味がないのでね。次回から3年間ぐらいのものを掲載していきたいと思っています。どうも失礼しました。

**(岡田副会長)**

この予算・決算書に関しては、それぞれの事業で必要な部分は、基本変わらないと思いますので、特に今年度はこれをするから、どれぐらいかかりましたとか、そういうポイントや前年度との違いがわかりやすく書いてあれば、もうちょっと見えやすくなったかなという気がいたしました。

**(伊住委員)**

2点お伺いしたいことがあります。燻蒸の件で資料2-6になりますが、現在お使いになられているエキヒュームが、本年度の末ぐらいで生産中止になるという話があったと思います。それに代わる方法を、何か現時点で検討を進めておられるようなことがあればご教示いただきたいというのが1点です。

もう1点が、資料7の予算で、資料収集保存事業というもののの中に、修復にかかる予算も含まれているかと思っています。今年度でいうと、行基さんの画像の保存修理が行われたと聞いていますが、収蔵品が増えてくればくるほど修理すべき作品は増えてくるはずですよ。これは要望として示していくべきかと思っておりますので、少しずつ予算がついていくようなことを希望しています。こちらは質問というよりかは、要望としてお話をさせていただきました。

**（学芸係長）**

逆に茶道資料館さんでは燻蒸についてはどのようにお考えでしょうか、お聞かせいただけたらと思います。

**（伊住委員）**

我々も検討しているところでして、こちらでご検討されているようなことがあれば私達も知りたいという意味での質問でした。

**（学芸係長）**

まさに同じ状況でございます。

**（伊住委員）**

わかりました。我々も調査を進めていますので、意見交換を定期的にさせていただければと思います。よろしくをお願いします。

**（榎宜田会長）**

そういたしましたら、時間もそれなりに過ぎていきますので、ここで報告は一旦打ち切らせていただきたいと思います。令和5年度につきましては、学芸員の調査研究をもう少し具体的にアピールしてもいいんじゃないかというご意見、これは大変重要なご指摘だったと思いますので、内外に対して、もう少し詳しい資料を今後、出していただければいいのではないかなと思います。

資料購入も、何とかもう少しできないかというご意見もあったかと思いますが、役所は、予算要求して承認を得ないと買えないので、役所のシステムの関係上なかなか難しいかなと思います。そういう現状はありますけれども、委員のご指摘を踏まえて、何か改善策のようなものがあるのかどうか、ぜひご検討されたいんじゃないかなと思います。

資料作製につきましては指摘も大変重要だったと思います。特にこの予算のプラスマイナスは重要で、どうも6年度はプラスになっているようです。このご時世にプラスっていうのは、なかなかあり得ない話ですので、組織としても、これだけやっているんだというのを内外に示す上でも、この予算の経過がわかるように資料化していただくと大変ありがたいのではないかなと思います。

続きまして、案件に入っていきたいと思います。本日の案件は、令和7年度の大阪・関西万博の開催に向けて堺市博物館の取組案というものができているようです。これにつきましては、委員の先生方に大所高所から、ご意見を頂戴したいというのが希望としてあると思いますので、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

**【議事（2）案件 令和7年度大阪・関西万博開催にむけた堺市博物館の取組について】**

## <事務局説明 (資料8)>

### (禰宜田会長)

それでは委員の皆様方からご意見を頂戴したいと思います。今であれば、まだ予算要求も可能な段階だと思いますので、そういうことに関することを含めて、それぞれの立場からご意見を頂戴できればと思います。

### (佐藤委員)

かなり盛りだくさんな企画があるように思いました。となると、いろいろなワークショップの数が増えれば増えるだけスタッフがいるかと思いますが、どのぐらいまで可能性があると考えておられるのか、まずお伺いしたいと思います。

### (禰宜田会長)

まず体制の話ですね。

### (学芸課長)

特に大阪・関西万博に合わせて現在の職員、それからボランティアの数を著しく増やすということは現在、想定しておりません。

展示品解説につきましては、平日、休日を通じて1日1人の学芸員がそれぞれの自分の専門性に合わせたテーマを持ちまして、展示解説をすることは可能ではないかと想定しておりまして、積極的な来館者とのコミュニケーションを図るということで考えています。

折り紙につきましては、今も入口付近で、受付スタッフ、ボランティアさんが積極的に折り紙を作っており、アンケート・クイズに答えてもらった小学生、外国の方に向けまして、折り紙を配っておるところでございます。好評を頂戴してまいりますし、外国の方にとって折り紙も一つの日本文化の表れかと思っておりますので、実施したいと考えています。回数や体制につきましては、ボランティアさんには無理のない程度で行っていきたいと考えていまして、スタッフの万博向けの増員は、現在、想定していないところでございます。

### (佐藤委員)

博物館に来館された方の満足のことを考えると、豊かなコミュニケーションがあるということは、すごく大事だと思っています。あとはどんな経験ができるかということ、そして、何かしらのお土産があるかということ、それから、ちょっとゆっくりできる居場所があるか、大体この4つぐらいを押さえておく必要があるといつも思いながらやっています。今のお話の感じだと、コミュニケーションについては、割と皆さん積極的に取り組むという気持ちでおられるので、そこをスタッフだけでどこまで充実させること

ができるかが今後の課題かとお伺いしました。どんな経験ができるかということについては、折り紙のことも検討されていると。小さなお土産として何かしら持ち帰ることができるので、いいと思います。居場所があると、中で撮った写真を発信したりとか、振り返ってお話したりして満足度が上がるでしょう。Wi-Fiの充実も居場所と合わせて必要だと思いました。もし、インバウンドを大きく望むのではないならば、広報の問題と経験の問題をどういうふうに両立させて考えたらいいのかと思いながらお話を伺っていました。来た人が発信してくれることが一番効率がいいと思うのです。撮って送りたくなるような写真が撮れる状況作りが、ポイントになってくるのかと思います。折り紙だけだと手元的でとても小さいので、もう少しダイナミックで大きな画像や、自分も含めて一緒に撮りたいと思えるような環境作りを、居場所とか経験とかお土産みたいなもの全部絡めて実現するようなことができれば、それが一つの目玉になるかと思います。例えばですが、コンセプトをきちんと立てて、ハイライトになるような屏風とかを選び、その拡大を作って、その中で写真が撮れるとか、その中のものになりきることができるとか、何かのものが、体験キットになっていて手前で操作して教音的体験としても使えたり、ちょっと学んでもらい遊んでもらって、且つ写真も撮れるような大きな背景になる場を作るような、何かそういうことがもし検討できれば、発信してもらえるとしますし、うまく体験キット化ができれば万博にとどまらないで、今後の教育プログラムの開発にとってもいい勉強の機会になると思います。

今聞いてすぐのアイデアなので、だいぶ練らないといけないことやコンセプトなどもあるかと思いますが、コミュニケーションの満足度、何らかの経験を持ち帰ってもらい、それが小さな手元に残るものや写真に残るもので発信してもらえするという状況作りという、私が今さっき申し上げた四つの点を何か充足するようなことができればいいなと思います。

#### (学芸課長)

我々、博物館、市役所の中からの発信だけでは、やはりご覧になっていただく回数が少ないし、広がりもないというのは、前から指摘されています。

一番効率がいいのは来て楽しんでいただけた人に、その内容を発信してもらうのが一番効率が良いので、行政からではない発信の方が信頼性も上がると聞いていますので、それに対応できるようなプログラムも考えていきたいと思っています。現在、古代衣装を着ていただいて、写真を撮ってもらうということをしていますが、かなり手間がかかることですので、インバウンドの方等に、その期間中どれだけの回数を楽しんでいただけるか検討の必要があるのですが、そのような体験をしていただいて発信してもらうプログラムというのを検討していきたいと思っています。

#### (佐藤委員)

楽しみにしています。できれば一過性のものではなくて、継続して使えて、館内のスタッフがその開発のプロセスで、学べるようなことができればすごくいいと思います。

### （禰宜田会長）

ありがとうございます。私も参考になります。他に何かご意見ありますでしょうか

### （國賀委員）

ボランティアさんとか職員による英語の対応がちょっと難しいとおっしゃっていたと思いますが、これは大事なことで、うまく対応できればいいと思いますので、例えば普段のボランティアさんの層とは違うボランティアさんを考えてみるとか、市内の大学生・大学院生で英語を得意とする学生さんに期間限定で応募をかけてみるとか、ぜひご対応していただければと思いました。それから私もあまり詳しくはないですが、インターネットの関係で、今若い人はFacebook よりもどちらかというところだとXですとかインスタに接している機会が多いように聞いていますので、博物館独自のものがあると興味を持って入っていきやすい、ビジュアルがだいぶ違ってくると思うので、館独自の公式のものをお考えいただいたらいいんじゃないかと思いました。

それから、先ほど学芸員による解説に力を入れるということでしたが、来館者とのコミュニケーションという意味で非常に大切だと思います。ただ、今年度の展示解説の参加人数を見させていただくと、だいぶばらつきがあります。学芸員の準備に要する時間は参加人数にかかわらず同じだと思いますので、状況を勘案し効率も考えていただいて、たくさん人が集まって多くのコミュニケーションを取れるギャラリートークにするか、あるいはもういっそのことこの展示会のギャラリートークはやめて他のことにしようとか、取捨選択を考えていただいた方がいいのではないかと、今年の参加人数を見て感じたところでございます。

あと、今後、企画展をお考えになると思うんですが、利晶の杜の「君死にたまふことなかれ」展のときに15カ国ですか、すごく多言語対応されている朝日新聞の記事が非常に印象に残っています。やはり鉄幹・晶子ですとか利休の関係は、海外の方にとっても興味のあるところではないかと思うんですね。私も学生を連れて実は最近も行って来たんですが、伊住先生の茶道資料館で呈茶体験とかなさってて、それがすごく海外の方や、国内の人にも非常に人気のあるイベントになっていると思います。利晶の杜でなさってることは、非常に海外の方にも注目の集まる場所じゃないかなと思いますので、利晶の杜単独でなさるということでももちろんいいかとは思いますが、外国の方の興味という意味で考えると博物館と一緒に場をなさることっていうのも重要なんじゃないかなということも特に思いました。

### （学芸課長）

まず、インターネットの利用ですが、大学生とかの意見を聞いておきますと、既にFacebook、Instagramが古くなってきているという意見も聞いております。そのあたりXを中心にしていくのかどうか、当館の公式SNSをどうするのかを検討していきたいと思います。続きまして、ギャラリートークですが、数字でお示しました通り、多いときと少ないときがございまして、その辺りの理由の検証も必要かと考えております。我々としては、できるだけコミュニケーションをとって大阪・関西万博対応というところ

ろにとどまらず、お越しになった方々が、この展示をご覧になってどう思われたかというところも、ギャラリートーク等を通じて取り込んでいきたいと考えておりますので、積極的にギャラリートークを土・日に展開していきたいと考えております。おっしゃっていただきましたように、かなり負担になるところもあろうかと思いますが、1回当たり20人ぐらいの参加がギャラリートークとしては限界かなと思うのですけれども、負担が少ない形で、多くの方にお集まりいただけるような手法を内部で検討してまいります。

さかい利晶の杜で行いました「君死にたまふことなかれ」ですが、こちらにつきましては、今日ご欠席の中先生からご意見を頂戴いたしております、ここでその概要を御披露させていただきたいと思っております。

『君死にたまふことなかれ』につきましては、非常に多くのマスコミに取り上げられて話題となったということで、企画展終了後もいろいろな翻訳、いろいろな外国語の翻訳の申し出が実際あるところでございます。この反響の大きさによりまして、さかい利晶の杜では今後も、展示内容を更新しながら、常設展示として、一部の訳文につきまして、パネルを掲示するということが決まっております。できれば万博で多くの海外の人々が来阪された機会に利晶の杜のみならず、堺市博物館の一角においても、『君死にたまふことなかれ』の多言語による翻訳をパネル展示してはどうかという提案でございます。

展示スペースの問題や実施に当たっての諸般の事情については想像ができませんので、簡単には結論が出ないかもしれませんがご検討いただくと幸いです。」

ということで、この「君死にたまふことなかれ」展につきまして、堺市博物館の一角でもパネル展示ができないかというふうなご提案を頂戴いたしました。こちらにつきまして現在、利晶の杜での企画展は終わったわけでございますけれども、英語・中国語・韓国語のパネル展示を継続しています。これが堺市博物館でも可能かどうか、可能ならばそれをどのタイミングですか、どれぐらいの量ですかということも含めまして、検討を進めたいと考えています。利晶の杜のある環濠エリアとこの大仙公園エリアを周遊していただくというところについては、両方に学芸員を置いている堺市博物館にとって重要なことだと思いますので、大阪・関西万博の間どのような形で周遊を促していくかという点につきましても、検討したいと考えております。

#### (伊住委員)

海外の方に向けた対応で、来館者数の想定という話がありますが、本当に歴史に興味がある方、流れてくる方もたくさんいるので結果的には増えるとは思いますが、でも、実際、博物館を回ろうと思われる方が、何か対応してもらえるイベントがあると思ってくるのかどうかは疑問に思うところです。

博物館で英語で何か対応してもらえるとか、たまたま行ったら英語で対応してもらえるようなワークショップイベントがあったというのは、たまたま出会った人しか行き着かないので、もう少し積極的に誘致するのであれば、イングリッシュスピーカーに向けた広報をどういう形で頑張るのか、そのためにわ

かりやすいたてつけをどうやって作るのかが重要だと思います。例えば、月曜日は館内全体で英語対応できるようになっていますといったわかりやすい仕組みがあれば巡りやすいのかなとは思いますが、現状の、各々ポツポツとしたイベントで、これは英語対応しているけどこっちは対応してないです、みたいな話になってくるとなかなか広報面でも難しい部分があるのかなと思います。毎週火曜日は英語で対応します、English Day ですよのような、大きい仕組みまで考えられるのであれば、来館者向け、観光客向けの情報発信としては、わかりやすくていいのかなと思いました。実際問題、英語の情報を仕入れようとする方が、どういう情報サイトを使ってどういう情報のリサーチの仕方をして、それぞれの目的地にたどり着いているのかというの知らない、情報をつかみようがない部分もあると思いますので、リサーチしていただいて、海外のツーリストの方が使っている情報サイトで情報収集し、情報発信にも尽力されたいのかなと思いました。

あと、お茶の話をしていただきました。呈茶席が茶道資料館にもございますけれども、私達も英語での対応というのは、ご予約いただいたタイミングで対応可能であればさせていただくぐらいしかできていないんですが、先ほどおっしゃっていただいたみたいに、利晶の杜も堺市博物館の伸庵も含めて、おもてなしとかお客様をお迎えするために素晴らしい場所はいくつかあると思いますので、先ほど言った英語対応の日みたいなものをその呈茶席にも設けてもいいと思います。今日は、英語しか喋れない人も気軽に来ていただけますよっていうその気持ちを示すことだけでも参加しやすくなると思いますし、お客さん目線というか、観光客目線でそういった部分も考えていただくのとより、来てもらいやすくなるのではないかなというふうに思いました。

#### **（禰宜田会長）**

外国人の方への対応は、大きな枠組みから、どういう対応ができるのか。たとえば、堺市には英語の得意な方に関する人材バンクみたいなはありませんでしょうか。そういう方に来ていただいてもらうようなことができるかというと思います。学生さんのボランティアっていうこともご提案ありましたし、いろいろおもしろそうですけれども、やるとなったら大変そうです。そこをどこまでやっていくのかという話もあったと思いました。外国人対応の話になっていますけれども、日本人対応ということも含めまして何かご意見とかございますでしょうか。

#### **（土橋委員）**

大阪・関西万博に向けて堺市全体でもいろいろやりましょうということになっているのかもしれませんが、万博は万博として、日常の堺市博物館の活動から切り離されたことではなく、今やっていることの延長線上、万博が終わった後も、日常の活動に還元できるような形で考えていただいた方が、学芸員のモチベーションにも繋がっていくのかなという気もするんです。もちろん、外国人の方で定住している方や、働きに来てらっしゃる方も多いかと思いますが、当たり前のようにいろんな国の方が、博物館に来られるような時代も来るのかもしれないんですが、そういった視点も必要かなと思います。

それと、先ほどからお茶の話、茶室の話っていうのが出ていて、思い出したんですけれども、堺市博物館でも以前、小学生向きに体験みたいなことをされておられて、いろんな小学校から来ていただくにはどうすればいいかという話もこの協議会でもあったかと思うんですけれども、堺市博物館の業務の中で、小学生のいわゆる課外活動や校外活動はどうなっているのでしょうか。

#### **(学芸課長)**

普段通しも大事にしながらというご意見を頂戴したかと思うんですが、万博の間も、我々がやはり一番発信したいと考えていますのは、堺の歴史の魅力とか価値を外国の方へ、大阪から遠く離れた国内の方へ持って帰っていただきたいということが一番大事ではないかと考えていますので、堺の歴史・文化の価値魅力を語っている常設展示を、しっかりと外国の方、国内の方にもわかっていただけるよう、今年度中に見直したいと考えています。ですから、特別なことだけではなくて、普段の展示内容をしっかりと理解していただくというところを充実させていきたいと考えています。

それから小学生・中学生対象の体験プログラムでございますが、毎年1~3月につきましては先ほどもご紹介させていただきました堺の昔の暮らしを理解していただく企画展を連続しておるところでございます。その間の体験学習プログラムとしまして、この地階ホールを利用いたしまして、実際に子どもたちに昔の道具を手にとってもらう、また、この横の階段の周りがございますような土器や埴輪の立体パズルを用いた体験プログラム、そこには子どもさんにも堺の歴史を理解していただけるような通史の年表も新しく作っておりますので、それをご覧いただく。それから展示室の堺の昔の暮らしを見学していただくというような、館内のいろいろな場所を使いました一連の体験プログラムを作っておるところでございます。近年、コロナウイルスの感染拡大のために受け入れを中止せざるを得ないような時期もございましたけれど、年々参加の小学校の方は増えておりますので、そのような形で堺の昔の暮らしを入りに、小学生に博物館へ来てもらう、子どものうちに堺の博物館はどんなところかを体験してもらう、博物館に大人になっても来てもらいやすく、というようなことを心がけて、今、体験活動プログラムを作っておるところでございます。

#### **(推進係長)**

課長からは小学校3年生の3学期のプログラムでしたが、年間を通じて1学期の遠足、2学期の遠足、3学期は小3の昔の道具を学ぶプログラム、それから夏休みについては学校の教員OBのスタッフ2名が中心になって行う体験学習会という、年間を通じて受け入れ体制としては整えております。

#### **(土橋委員)**

質問の仕方が悪かったのかもしれないんですけども、茶室を使った茶道体験みたいなプログラムについてはもう今はされていないということでしょうか。

**(学芸課長)**

茶室を使ったプログラムは、現在行っておりません。

**(土橋委員)**

先ほど、利晶の杜の話もありましたけれども、そういった茶室体験というんですか、こちらの方でも茶室を活用した本物に触れるというのが非常に貴重な経験で、他ではできない、堺市博物館だからこそできるような一つの体験になるかと思います。期間限定であってもいいと思うので、せっかくのお茶室ですのでそういった活用をしていただければということでもよろしく願いいたします。

**(佐藤委員)**

茶道のことでは、前から思っていることがあります。どうしても茶道の経験をしてもらうとなると、一般的に食べたり飲んだりというところに焦点が行きがちな印象があります。けれども、博物館でやるということや、茶道の面白みということを考えると、物を見るときか、物を取り合わせて一つの場をしつらえるというのが、博物館の活動にも通じる営みとして適していると思っています。

なので、体験用のキットのように物を触ったり、じっくり見たりする経験を茶室の中で行うのは、茶道への理解も深まるし物を扱うということの理解も深まるので、すごくいいのではないかなと思います。

私自身、これまでにいろんなところでやっているワークショップの中で、茶道の要素を取り入れているものがあります。例えば、博物館が大事なものをとりあわせて展覧会を企画するというように、茶室の中ではいろんなものを取り揃えて一つの場を作るというワークショップをイタリアやインドネシアの小学生と一緒にやりました。また、目の不自由な方も一緒に、手で見ると鑑賞として、いろんなお茶碗を触りながら鑑賞するというワークショップもやりました。口で味わうだけではなく、いろんな味わいを提供する場として茶室を使うのも、とても面白いと思っています。ここで今、あまり深いところまで議論する話ではないと思うのですが、お茶を飲む経験以上のものを博物館の強みを活かして取組むのがよいのではないかと考えます。

**(伊住委員)**

私も茶室に関するところですが、今、佐藤委員がおっしゃっていただいたみたいに、茶室を使うとなると、どうしてもお茶会というようなイメージが出てまいります。お茶室というのはお茶に特化した空間として出来上がってきたものですが、元々日本建築そのものは多目的な世界観で使われていたところですので、そこからチャンネルに特化して行って茶室になっていくというわけですので、別に飲んだり食べたりが中心ではないワークショップは、私も大いに賛成しております。例えばさっきおっしゃっていた折り紙のレクチャーの話であるとかも、会場を茶室にしてみたらいいんじゃないかなと思うんです。これはジャストアイデアですが、堺には堺発祥の湊紙という紙があって、湊紙は茶室の腰張りに使われている紙ですが、実際にその湊紙を使って折り紙をして、それで茶室にはこういう形で使われていますと

いう実際の使われ方の使用環境を見つつ、ワークショップするっていうことだけでも理解が深まると思います。何かそういういろんな合わせ技の中でご理解を深めていくのはすごく重要というか、堺でしかできないやり方かなと思いますし、実際に茶室がその形で使われることによって、親しみを持っていただく方が増えれば、さらにその場所の活性化も進んでいくと思います。先ほどの折り紙レクチャーなんかをやるのであれば、そういう場所の活用を含めて、広がりを持って考えていただくのがいいんじゃないかなと思いました。

#### （学芸課長）

子ども向けのワークショップのお話から、折り紙を外国人向けに使うならばお茶室で、茶室では折り紙だけでなく建築空間の鑑賞であったり、お茶碗の鑑賞であったりということも、子どもだけではなくて外国の方、遠くからいらっしゃる方にも有効ではないかというようなご意見を頂戴できたと思います。どれぐらいの頻度でとか、どれぐらいの英語ができる人間がという課題はあるかと思うんですけども、検討してまいりたいと思います。

#### （禰宜田会長）

この件でも結構ですし、やはりお茶かと思いますが、他に何か別の観点からでも、ご意見頂戴できればと思いますけどいかがでしょうか。

#### （岡田副会長）

別に万博関連に限ったことではなくって、この泉州の街にとって一番重要なのか問題なのは、いかに通過点にしないかっていうことですよ。

大阪市内と関空は結ばれているが、言葉は悪いですけど、いかに堺で引きずり下ろすかみたいなことがあります。別に堺だけじゃなくて泉州の街がみんなそうだと思うんです。そう考えたときにも博物館だけで何かっていうのも難しいというか、本当にモナリザぐらいのものがないと、堺市博物館だけをめざして人が来てくれるか難しいと思います。

そこで、堺にいろんな人に来ていただけるコンテンツ的なものは、お茶や包丁、結構外国の方は包丁が好きだし、あるいは自転車は世界のシマノがあるんです。そういうところと堺全体でうまく連携する。あと、利晶の杜からこの博物館とかシマノの自転車博物館の間はアクセスが不便なので、土日ぐらい循環バスのようなものは走っているんですかね、今はなくなっちゃった。それを何とかしないと、キャリーケースをゴロゴロ転がしてウロウロしないので、どこかに拠点があって荷物を預けられて、堺にはこういうところもありますよ、みたいなものを作る。そうすると博物館だけの問題ではなくって、もっと大きなところでしていただけないかなと思います。

デジタルサイネージの一覧表に府内向けのデジタルサイネージはどんな駅に置いてあるのか書かれているんですけど、南海高野線の堺東以外は全部JRなんですね。府内っていうんだったら、近鉄・京阪・阪

急・阪神はいいのか、いやそこまで広げなくてもいいのかもしれないですけど、ちょっと偏ってるのかなと思います。

いろいろあるんですけど、結局堺市博物館だけじゃなくて博物館を含めて、どういろんなものを巻き込んでいく、いけるのかっていうところだと思います。だから、こういうのがという有効な案があるわけではないんですけども、ちょっと広いまとまりというか、泉州全体ぐらいの勢いだと思うんですけども、そういう場ができないかなと思います。

**(禰宜田会長)**

これは、堺市全体で何か大きな企画があって、その中のランチで堺市博物館が位置づけられているのかどうかというようなことも関わりそうな問題なんですけども、いかがでしょうか。

**(学芸課長)**

堺市内の文化施設・展示施設でどのように万博に対応していくのかを求められているところでございます。先ほども副会長から言われました通り、周遊のしづらさというのは、これは堺市全体の課題としてございます。

そのあたりで、多くの展示施設を抱えておりますのは文化観光局ですので、先ほど循環の拠点という言葉をいただきましたけれども、どのように市内を回していくのかというところは、今後、観光部とも十分に検討を進めていく必要があるところだと思います。そのあたりについては観光部と意見交換してまいりたいと思います。

**(禰宜田会長)**

今のお話を聞いている限りだと、特に大枠があって、堺市全体として万博はこう取り組むんだっていう基本的な理念とか、具体的なプロジェクト・チームが立ち上がってるという状況ではなくて、堺市博物館やりなさいとかっていう現状だということですね。

**(学芸課長)**

大仙公園エリア・環濠エリアというところで、展示施設だけではなく、先ほどお話がありました包丁すとかそういう文化観光資源というのを十分に活用しながら、万博会場から堺へ人を呼び込んでくるというテーマがあります。それを実現するためそれぞれの文化、展示施設でいかに万博目的で来られた方に対してPR、訴求力のあるような企画をするのかということをお求められています。

大仙公園エリア・環濠エリアで、どうやって効率的に循環させていくかということにつきましては、やはり課題が大きいと認識しております。利晶の杜と堺市博物館でもなかなか行き来がしづらいので、どのような手段でうまく回っていただけるかっていうところについては、早急に検討してまいりたいと思います。

**(禰宜田会長)**

当然のことながら堺市さんもあるわけですし、そうなってくると、南河内、藤井寺市などとの連携なんかも含めて、やり始めると大変で、どこまで広げるのかっていうところがあると思います。できる範囲のところでご検討いただくっていうことかなとは思いますが。

**(副館長)**

先ほど課長から説明させていただきました。文化観光局の博物館として取り組む話もちろんあることながら、会長からご質問いただいた堺市として、次年度の万博に対しての取組の姿勢というのはどうなのか、PTなどの立ち上げはないのかとおっしゃっていただいたところの追加の説明なんですけれども、堺市もこの大阪・関西万博に関しましては、事務局に対して職員の派遣を行いながら、取組を進めているところでございます。

堺市として万博に対して参画の姿勢を持ちながら、課長がご説明申し上げました通り、集客もしくは歴史・文化の発信という堺のプレゼンスを発信するという大きな役割を担う文化観光局の施設、その中でも堺市博物館の具体的な取組といたしまして、何をするかというようなところの検討を今回考えているので、ご意見をいただきたいというようなところでございました。

周遊のしやすさであるとか、先ほど副会長からもご意見ありました堺東の自転車博物館であるとか、包丁を取り扱う堺伝匠館であるとか、そういう施設との連携というところは私ども博物館だけではなくて、堺市の様々な部局との連携というところが欠かせないと考えております。各委員の方からも来ていただきたいと思うのであれば、お客様の立場に立って、行きたいと思っていただけるような視点も必要だよと、たくさん具体的な例示もしていただきましたので、今後の予算要求にも具体的に反映させるような形で考えていきたいと思っております。

**(禰宜田会長)**

博物館学芸員の人数は多いんですけれども、そちらに体制がシフトしてしまうと、先ほど来言われているように、通常の本当にやらなければならない仕事がおろそかになってしまっただけでは、これは元も子もないと思います。堺市全体の中で博物館を位置づけていただくような方向にうまく、進めていっていただきたいなと思います。

**(村田委員)**

今回は、万博対応ということで議論になっているかと思うんですけれども、それだけではなくて、本来、外国人が展示を見て、どういうふうにするのかとか、理解できるのかとか、あるいは外国人に展示をどのようにすれば理解をしてもらえるのかとか、そういう問題でもあるかと思うんですね。ですから、今回の万博対応というだけの話ではないと思います。この辺りは前からある問題だと思いますので、どんな考え

方で外国人対応を今まで博物館としてはされてきたのかまず確認したいところですね。

それから、大阪城天守閣がありますけど、あれは博物館でもあります。大阪城を訪れる観光客は本当に外国人が多くて、日本人より多いと思います。その外国人はほとんどが天守閣に上るわけです。天守閣が博物館になっていますから、そこで展示を見ると結果的にものすごくたくさんの外国人が、あそこで歴史の展示を見ていることになります。ですから、天守閣は、外国人対応でいろいろな経験があると思うんですが、大阪城天守閣から学ばれるようなことがあるのか、そのあたりをお尋ねしたいです。

最初申しました問題というのは、例えば我々が外国に行って外国の博物館を訪れて、言葉はわからないんだけど、展示を見ればなんとなくその歴史がわかったという展示になっていることが多分理想だと思うんです。ですから、それは堺の博物館でも同じことかなと思います。ちょっと抽象的な話ですけど、外国人に対してこれまでどういう対応を、それから今後、博物館としてしようとされているのかというところを確認したいと思います。

#### (学芸課長)

これまでの外国の方への対応につきましては、先ほどご説明申し上げましたようにリニューアルの際に英語訳の解説をつくっていくこと、最低限4カ国語にしていくこと、それから4カ国語対応の音声ガイドを準備して、主要な展示品について詳しい解説を行っていくこと、というような対応をしております。主要な展示物に対する説明をするような外国語対応でございました。

ですので、リニューアルが終わってないところは、まだ英語対応はできていない状況でございます。今後、リニューアルにつきましては、展示キャプション、説明、展示パネルに対して英語をつけていきまして、展示物だけではなくて歴史、時代背景についても英語で読んでいただけるように進めていきたいと考えています。

非常にたくさんの方がおいでになりました、世界遺産登録時に大規模なリニューアルをしまして、英語が充実してきたところがございますので、今後、外国語対応をますます進めていく必要があると認識しております。

それから、大阪城天守閣につきましては、確かにそうだなと思いましたが、何か学べることがあれば、問い合わせさせていただきたいと思います。

#### (村田委員)

英語による解説の充実化ということですね。本当に大事なことだと思いますが、それだけでなく、日本語はもちろん、英語もあまりよくわからないという外国人に完全にわかってもらうことはできませんが、モノそのもので訴えるというんでしょうか、理解してもらえっていうんでしょうか、そういうことが可能かなと思います。英語での解説を充実すれば解決するという話でもなく、展示の非常に原理原則的なやり方とも関わっているのかなと思いました。

**(禰宜田会長)**

非常に本質的なご意見を頂戴したのかなと思います。万博への対応に特化した形でのご意見を言っていたかもしれませんが、それにとどまらず、外国の方々、あるいは遠方から来られた方に対してどういうサービスができるのかという、特殊な状況でありながら普遍的な方向に堺市博物館の取組が向かっていったらいいんじゃないかなということをお話を聞きながら思いました。

**(佐藤委員)**

今ちょうど言葉の話と解説のことが出たので1点申し上げます。英語について取り組まれていて、他の言語はどうしましょうというコメントがありましたが、実は、現在の日本語の展示解説が全体的に難しい印象を持っています。外国語にするときには、別途やさしい解説を作っておられるのではないかと想像しています。4カ国語から漏れる場合も、Google翻訳とかで割と対応できるので、翻訳されやすく、歴史ファンでなくても理解しやすい日本語解説のあり方を同時に検討してもいいのかもしれないと聞いていて思いました。

**(禰宜田会長)**

今のご指摘は、ズキンときますよね。

**(学芸課長)**

日本語解説を、歴史ファン、コアなファンに限らず、どのように行っていくというのは、日々我々が常に振り返りながら検討していかなければならないことだと思いますし、そういう日本語があって、初めてわかりやすく翻訳ができるかと思しますので、そちらも検討してまいりたいと思います。特に堺ミュージアムに向けての検討も進めておりますので、どのような方に向けて解説を行っていくかというところも十分に検討いたしたいと思います。

先日、ベトナムの方をお迎えいたしまして、館内を英語の通訳の方についていただいて案内をしたのですが、スマホをそのままかざされて、中世の大阪とベトナムの交流のことを記した解説板の前で、直接Google翻訳でベトナム語に訳されて、自分の国のことが載っていると喜びいただいたところを見ております。スマホの翻訳は、今後ますますAI化も進んでいくかと思しますので、そのあたりも念頭に置いた解説文を、検討していきたいと考えております。

**(禰宜田会長)**

今日のこの議論は関西万博に向けてということで話が始まったと思いますが、何か展示の本質的な部分、万博に関わらず外国人をどう受け入れていくのか、展示パネルはどうするのか、最後には本当に博物館に関わる者には大変重い重要なお指摘だったのではないかなと思います。その辺のところにつきましては堺市の場合は、(仮称)堺ミュージアムで活用できるということで、万博に関わらず普遍的な、

これは土橋委員のからもご指摘があったと思いますけれども、せっかくやるわけですから、のちのちに繋がっていくような、堺市博物館にとって一過性で終わらないよう、この取組をスタートにさせていただいて、今後に繋げていっていただきたいと思いました。

今回、大変いい議論ができたのではないかなと思います。委員の皆様方には貴重なご意見を頂戴いたしましてありがとうございました。それでは、マイクを司会の方にお戻ししたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(司会)

あいさつ

(館長)

#### <閉会あいさつ>

本日は、堺市博物館が大阪・関西万博に向けてどのような意識と取組みを持つべきかについてお話ししました。まず、学芸員の研究業績や予算・決算の報告方法に課題があるため、次回には修正した形で提出する予定です。

万博との関連では、堺市博物館が地理的に近いことを活かし、外国人観光客の誘致にどうつなげるかが重要なテーマです。実際、外国人来館者は年々増加しており、令和5年には2,430人、今年度もすでに1,000人を超えています。彼らは日本の古墳やイギリスの巨石文化などに関心を持って来館していますが、展示が日本語中心であるため、理解には限界があります。それでも「来てよかった」と言ってくださる方が多く、情報発信の工夫が求められています。

堺の歴史文化をよりわかりやすく伝え、新しい発見につながる展示のあり方を考えることが、今後の大きな課題です。また、博物館全体での体験を重視し、茶室など未活用の施設をどう生かすかも検討すべき点です。専門家の協力や費用の問題もありますが、可能性は大きいと感じています。

さらに、Google 翻訳などの技術を活用すれば、外国人とのコミュニケーションもより円滑になります。こうした技術を取り入れながら、博物館の情報発信を強化していく必要があります。

現在、新しいミュージアムの基本構想の検討が始まっており、完成時期は未定ですが、皆様のご意見を参考にしながら、展示の本質や来館者対応のあり方を見直し、より魅力的な博物館づくりに取り組んでいきたいと考えています。

どうも今日は長い間にわたり、皆さんの意見がいろいろ盛り上がりましてありがとうございました。

(司会)

挨拶 終了